

平成 24 年度第 2 回鹿児島市交通事業経営審議会 会議概要

○ 日程・場所・出席者

(日 程)平成 24 年 10 月 31 日(水)10:00～11:30

(場 所)市役所東別館特別中会議室

(出席者)委員 9 名

(事務局)交通局総合企画課

○ 会議の次第・配付資料

(会次第) (1)平成 23 年度鹿児島市交通事業特別会計決算概要

(2)経営健全化計画に係る平成 23 年度目標効果額の達成状況

(3)経営健全化計画重点取組項目等の平成 24 年度上半期実施状況

(4)交通局施設リニューアル事業について

(5)鹿児島市電車運行 100 周年事業について

(配布資料) 資料 1 平成 23 年度鹿児島市交通事業特別会計決算の概要について

資料 2 平成 23 年度目標効果額の達成状況

資料 3 鹿児島市交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成 23 年度実施状況

資料 4 鹿児島市交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成 24 年度上半期実施状況

資料 5 (交通局施設リニューアル事業)バス施設の移転予定地の決定について

資料 6 鹿児島市電車運行 100 周年の取組状況について

冊子① 平成 23 年度鹿児島市交通事業特別会計決算書

冊子② 平成 24 年度事業概要

その他 電車運行 100 周年記念パンフレット

(協議の概要)

(1)平成 23 年度鹿児島市交通事業特別会計決算概要

	委員の主な意見・質疑等
1	<p>収入の中で負担金・補助金がいづが増えており、その理由が補助対象経費の増となっているが、23 年度に一時的に増えたものなのか、今後もある程度継続してこの程度の収入が見込めるのか、補助金の内容も含めて教えて欲しい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>負担金・補助金の増については、施設のリニューアルによるものが大きい。これは、社会資本整備総合交付金という国の補助金だが、この対象となった部分が見込よりも多かった。今後 3 年間で施設のリニューアルが進んでいくが、全体の補助金も見込より多くなっている。</p>
2	<p>低床バスは、座席が高かったり、低かったり、座る座席が少なかったりして、普通のバスより利用する時に困るので、普通のバスの方が乗り易いと思いつつも利用しているが、バスは低公害低床バスに替えていく予定か。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>現在では、まだ1/3程度だが、将来的には全て低公害低床バスに買い替えていくことになる。</p>

(2) 経営健全化計画に係る平成 23 年度目標効果額の達成状況

	委員の主な意見・質疑等
1	<p>共同運行によって収入が減になったということだが、この原因、要因は何か。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>南国交通のバスが走った分については交通局の収入とはならないので、その部分でどうしても減収となる。</p>
2	<p>23年度においては、エコドライブによる効果額が 800 万円程度あったということで、意外と大きいと思った。一方で、目標効果額には達していないが、これは、燃費は改善したが、燃料価格が上昇したことによって効果が落ちてしまったのか、燃料価格は予定どおりだったが、燃費の改善が思ったほどうまくいかなかったのか、どのように分析しているか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>23年度においては、エコドライブの実施が 0.07 km/l の燃費改善に繋がり、その効果は非常に大きいものであったが、原油価格の高騰が非常に顕著であったことなどから、目標効果額に達しなかったと見ている。</p>

	委員の主な意見・質疑等
3	<p>個別の項目ごとに達成率を見ると、運行の効率化や経費削減策が目標を下回っているような状況である。これに対して増収対策など他の項目は目標を上回っている状況だが、運行の効率化や経費の削減は、内部においてコントロールしやすい部分であり、本来ならばこちらの方が目標を達成しやすいのではないかと。逆に増収対策は、乗客の動向が大きく影響するので、対策を色々としたとしても結果はなかなか読みにくいというのが、増収対策の傾向ではないか。</p> <p>本来ならば結果が逆である可能性が高いと思うが、経費削減などコントロールできるものがややコントロールできなかったというのは、内部の問題ではないかということと、増収対策については、今年頑張った分だけ来年はその反動が懸念される。</p> <p>結果的に目標は達成されたが、その中身についてはしっかり検討しなければいけない、という見方もできるが、その辺を踏まえ、23年度の取組全体の印象をどのようにお考えなのか、お聞きしたい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>運行の効率化とか経費の削減については、コントロールしやすいと言えればしやすい内容だが、例えば運行の効率化を図るための共同運行は、実施することによって利便性が低下しないように色々工夫をしているところだが、相対的には乗客数が減っているため、そこをどうやって食い止めるかという面では、非常にコントロールしにくい部分がある。</p> <p>また、経費削減においては、管理経費の抑制とか修繕費の縮減という面ではコントロールしやすいが、エコドライブの徹底等は、燃料価格の上昇などの影響は、私どもではどうしようもない部分でもあり、非常に苦しいところである。</p> <p>増収対策については、販売促進や広告収入の拡大など、企業努力によって効果を発揮しやすいところだが、経済情勢が厳しい状況の中、宣伝広告費が最初に削られるため、これも相当営業努力をしなければいけないところであり、24年度においては、電車運行100周年に関する情報発信を多くして、昨年よりも収入を増やしていこうと努めている。</p> <p>健全化計画で目標効果額を定めているので、様々な外部要因がある中で、今後とも目標効果額の達成に努めていきたい。</p>

	委員の主な意見・質疑等
4	<p>交通局に従事する運転士一人ひとりが、経営が厳しい、来年度はもっと改善に繋げよう、という気持ちを持って取り組んでいかなければ、経営改善は厳しいのではないかと。計画の中に、こういった形で職員の意見を取り入れている、ボトム意見を健全化計画に盛り込んでいる、というものがあつたらお聞かせいただきたい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>健全化の取組には、情報の共有化が必要であると考えており、「健全化ニュース～時の風～」という紙面を23年6月から発行している。この紙面に経営状況、あるいは健全化の状況などを掲載し、乗務員の休憩所等に貼り出すことで情報の共有化を図っているところであり、また、健全化計画については職員研修でも説明を行っている。意見等のボトムアップについては、職員提案という制度を設けており、23年度には22件の意見提出があつたが、優秀なものについては表彰するとともに、その意見を業務に活かしているところである。</p>

(3) 経営健全化計画重点取組項目等の平成24年度上半期実施状況

	委員の主な意見・質疑等
1	<p>通勤に公共交通機関を使っていない市役所職員の知り合いがいるが、その理由を尋ねると、夜遅くまで残業をしているとバスがいなくなるので公共交通機関での通勤は無理である、ということだった。</p> <p>深夜まで電車やバスを走らせると赤字になるという予測はつくが、公共交通機関のある時間には帰れないから通勤に使えないという声が多くはないかと思う。この事について、1つの可能性としてご検討いただけないか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>運行時間をもう少し遅くまで伸ばして欲しいとか、深夜便を走らせて欲しいという話はあるが、運転士だけでなく、運転士を管理する職員まで配置しなければならず、経営的にはなかなか難しい。市役所の職員の状況については、通勤に公共交通機関を使わないのは何故だろうかということで、アンケートなども取っているのだから、それを分析し、検討していきたい。</p>

	委員の主な意見・質疑等
2	<p>公共交通機関というのは、おもちゃみたいな存在でないか、ということを何度か発言してきたが、今警察のバトカーのような電車が走っていて、非常に面白いと思った。いい方向性だと思うが、子どもたちの反応はどんなものか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>バト電と呼ばれ非常に人気があり、さらに 10 月からは青バト電車という電車を走らせているが、出発式時にはバト電と青バト電を並べて式典を行ったところ、参加された幼稚園の子どもさんには大変喜んでいただけた。</p> <p>関心を持っていただく、親しみを持っていただくということが、利用促進、ひいては増収に繋がるという点もあり、今進行しているアイデアでは、それに続く第 3 弾として計画しているものもあり、今後とも、色んな形で関心を持っていただける事業を考えていきたい。</p>
3	<p>運行ダイヤの見直しに注目していたが、人件費や燃料費の削減によって効果が見られる一方で、利用者の減には歯止めがかかっていないようだ。減便をすることによって、バスは頼れないと思うようになる人もいるのではないかと思う。減便によって収入の減にどのような影響があったのか、もしくは影響は無いと考えているのか、分析をしていたら教えて欲しい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>減便した分については収入減となるが、23 年度の状況では、収入減は想定していたよりもだいぶ少ない状況であり、人件費と燃料費を節減できた部分を効果額として計上したところである。</p> <p>今後は、さらに平日ダイヤの減便についても検討していかなければならないと考えているが、同時に出来るだけ収入が減らないような状況を探っていかなければならないと考えている。</p>

(4)交通局施設リニューアル事業について

(5)鹿児島市電車運行 100 周年事業について

	委員の主な意見・質疑等
1	<p>交通局 Facebook では、情報の発信だけでなく、お客のニーズとか、あるいは苦情なども受けたりしているのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>交通局 Facebook は、今のところ情報発信のツールとしてのみ使用しており、意見要望等の情報収集を行うためには使用していない。</p> <p>交通局ホームページの方では、利用者の方から色々な意見があった場合には、回答できるものには回答している。</p>